

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 障がいのある子どもの育成支援に携わるにあたり、子どもの行動の背景を推測することが大切だと分かりました。例えば、話を聞かずに立ち歩いたときも終わる見通しが持たず、待てなかったのかもしれないと推測し、見通しを持たせるという対応をすることも、支援する上で大切だと思いました。好ましい行動を探して褒めたり、肯定的な注目を与えたり、その子どもがうれしく感じる褒め方（みんなの前で、一人のときにそっと等）で褒めたりして、信頼関係を築いていきたいと思いました。
- ◆ 障がいのある子には、長々と話をするのではなく、要点をまとめて短く分かりやすい言葉で、本人の近くや目の前で話すとう理解しやすいと学びました。社会でもそうですが、否定的な注目ばかりでは自分はダメな人間であると精神的に追い込まれてしまうので、肯定的な注目を大切にし、人を褒める・認める・感謝する・喜ぶ・励ます・笑顔を返すを当たり前実践していきたいと思いました。褒めて伸ばすを有言実行したいです。
- ◆ 障がいのある子どもの育成支援は性格ではなく、行動に注目することが大事であると学びました。好ましい行動を見つけて褒める、褒めることは子どもの行動に気付いていることを伝えることだと教えていただきました。つつい子どもの好ましくない行動に目が向きがちでしたが、これからは意識的に好ましい行動に注目できるようにして、効果的に褒め、子どもに伝わる言葉がけができるようにしたいと思いました。
- ◆ 自分の意思を上手く伝えられず、「いやだ」「やりたくない」などと言って部屋の隅に居ることの多い子どもに対して、話を全然聞いてくれず、困った子だなあと感じて接していました。子どもはみんな一緒ではなく、叱ることが有効な子どもと、そうではない子どもがいるということや褒めることの大切さ、分かりやすく伝えるための具体的な言葉がけを学んで、できるだけ笑顔で寄り添い、簡潔な言葉がけを実行していきたいと思いました。
- ◆ 今回の内容では、肯定的な注目とその子の行動ではなく背景にスポットを当ててみるという二つのことが印象に残りました。日々、子どもたちと接していると、予測できないことの連続でめまぐるしいのですが、意識して子どもたちの姿をどう捉えるか、どこに注目するのが習慣付いていけば「こうでなければいけない」という自分の頑固さからも解放され、より余裕をもって関わるができると感じました。今日から意識したいと思います。